

# しおがま家庭の省エネ大作戦！

はまって、ひらめいて、ひろげたくなくて  
しおがまの省エネ大作戦は今、熱くつながり始めた。

門田 陽子  
ストップ温暖化センターみやぎ副運営委員長

## 1. はじめに

塩竈市では平成12年6月に施行された「塩竈市環境基本条例」に基づき、平成14年10月に「塩竈市環境基本計画」が策定されました。計画の基本方針の中では、市が率先して省エネを進めるとともに市民や事業者にも省エネを呼びかけ、まち全体で省エネ・省資源に取り組むことをうたっています。

この計画を確実に実現させるため、塩竈市は、行政と市民が協力して細かな行動案を作成することにしました。この行動案の準備段階で基礎調査・提案を実際に行ったのは、公募による市民・市民団体が構成され、塩釜まちづくり研究所（以降“まち研”）<sup>1</sup>が運営する市民環境懇話会です。

今回の省エネ調査は、

- ・実際に、どのような情報が市民の省エネの「はじめの一步」につながるか？
- ・実際に、どのくらいの「エネルギー消費の削減」が実践できるのか？

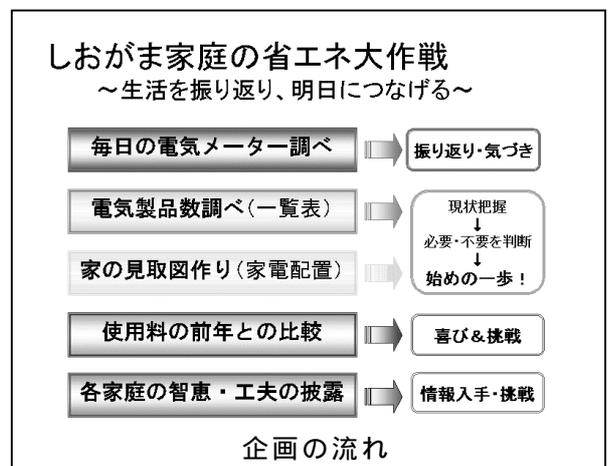
という情報収集の一環としてスタートしたものです。

結果は、48ページからの報告の通り、最大約50%の電気使用量削減という素晴らしい成果をあげることができました。また、この事業は提言が行われた後も、塩釜まちづくり研究所・環境部会の独自の事業として継続され、具体的な数字による成果をあげながら着実に市民に広がっています。

## 2. しおがま家庭の省エネ大作戦 の企画概要

### (1) 目的

家庭で使用するエネルギーの上手な使い方を学ぶことにより、各家庭の生活に合った“地球にもお財布にもやさしい暮らしかた”をみつけるとともに、実践例を通して、塩竈市における家庭の具体的な省エネプログラム作りを行うことで、効果的な省エネルギー普及をめざす。

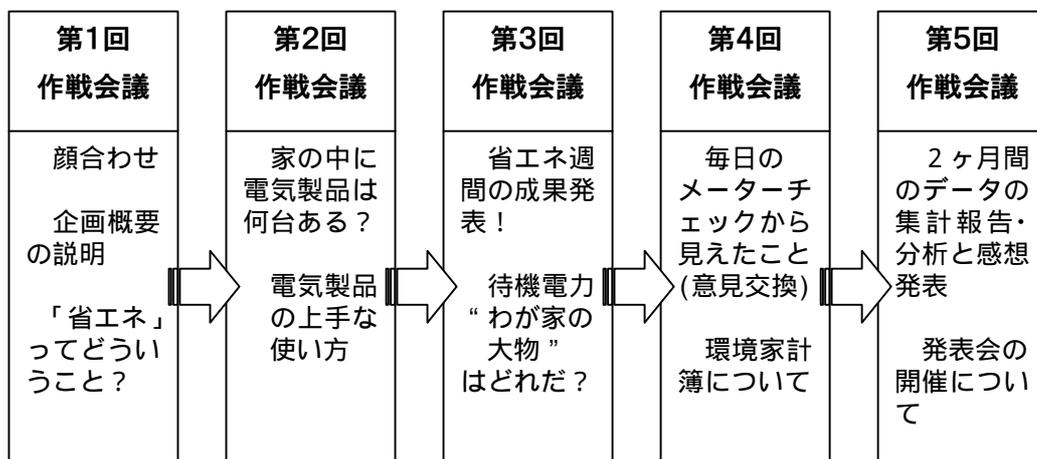


<sup>1</sup> 塩釜まちづくり研究所 Website <http://www.h7.dion.ne.jp/~nabetani/>

(2)対象 塩竈市内に住む方

(3)日程 2ヶ月間で4～5回講座(参加者のスケジュールに合わせて決める。)

(4)スケジュール



(5)参加者の募集方法

- ・ 市政だよりへの掲載(塩竈市環境課との連携により行う)
- ・ チラシ配布(公民館・生協各店舗での配布・MELON情報紙への折込等)
- ・ ダイレクトメール(今までの講座出席者等)
- ・ メール・HP等での情報発信

(6)参加者への謝礼

データ提出をされた方には、協力謝礼として2,000円分の商品券を差し上げる。



(7)実施実績

	期間	参加家庭	作戦会議
第1シリーズ	02年01月19日～03月10日	3世帯	全5回
第2シリーズ	02年03月10日～05月10日	4世帯	全4回+発表会 (内1回はモニターさん 宅の太陽光発電見学会)
第3シリーズ	03年08月30日～11月01日	4世帯	全4回+発表会

毎回の作戦会議では、モニターの家族(夫婦、親子など)と、まち研・環境部会のメンバーがその都度、数名参加しました。

### 3. 実践報告

(1)第1シリーズ～02年01月19日～03月10日

「しおがま家庭の省エネ大作戦～冬の省エネでお財布もあつたか」

最初に挑戦したのは、まち研のメンバー（3世帯）の皆さんです。

まず、一人一人が「自分自身がエネルギーを使っていること」を“体感”するため、毎日の電気使用量を調べることになりました。

くるくると回るメーターを見て早速驚き！

「家のどこでこんなに電気を使っているのかしら??？」これが最初の疑問です。

これを解決するため、省エネルギーセンターの資料を使って待機電力や電気製品のエネルギー消費について学習しました。そして各自が待機電力測定機を持ち帰り、家の電気製品を測定したり、家の中に何台の電気製品があるか調べたり、お互いに試してみた省エネ術を交換したり…。

さらに、コンセント周辺を整理してプラグの抜き差しをしやすくしたり、手元スイッチを取り入れたり使用時間を短くしたり…。ちょうど切れた電球をW(ワット)数の小さいものに取り替えた家庭もありました。こうしていくうちに目に見えて毎日の使用量が減っていったのです。

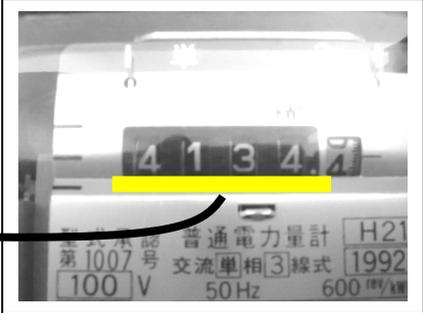
驚きと感動！13～46%の削減

2ヶ月間の毎日のメーター確認と計5回の情報交換会で、各家庭の実状にあった省エネ方法を皆で模索してきた結果は！昨年と同じ月に比べ電気使用量で13～46%の削減、同時に電気料金も最大で3分の1近くの削減になりました。

**塩釜家庭の省エネ大作戦**  
～ただひとつ、毎日続けたこと～

2/2 (日)	3 (月)	4 (火)	5 (水)	6 (木)	7 (金)	8 (土)	合計
7,203.7	7,214.2	7,225.0	7,233.1	7,242.3	7,254.0	7,262.2	70,400.4
11.9	10.5	10.8	8.1	9.2	11.7	8.2	10.1
日中暖か ヒーター はつけた り消した り	日中S1 人 VTRを2 時間観る	F休み 日中2～3 時間お出 かけ		寒い1日 ヒーターは ほぼつ けつばな し	9:30～ 14:30ま で留守	天気大荒 11:00～ 14:30留 守PC:プ リンター 使用	

1週間の使用量:70.4kWh ⇒ 1日平均使用量:10.1kWh



<メーター-CHECKの方法> 毎日同じ時間に電気のメーターを見ます。 前日と当日の数字の差を下の枠に書き込みます。 毎日の使用量が見えてきます。 その日に特別なエネルギー使用があったときは、一言記入しておきます。



毎日の生活を送ることでエネルギーを使用していることを自分自身の目で確認します。

(2)第2シリーズ 02年03月10日～05月10日

「しおがま家庭の省エネ大作戦～コンセント<sup>から</sup>毎日抜けば、くせになる」

第1シリーズが盛り上がっている頃、一方では2月中に市政だよりで次の省エネ大作戦への参加者の募集が行われていました。

第2シリーズでは、1シリーズで省エネを体験した方々が次の参加者のサポーターとなって省エネ術を伝授していきます。塩竈で生まれた省エネの小さな輪は、ひとまわり大きくなろうとしていました。

出発は「冬グループ」が省エネの極意を伝授した「合同作戦会議」。自分が実際に、体験した満足できる素晴らしい成果を一生懸命に説明する「冬グループ」。達成した自信から熱い思いが伝わりました。そして「春グループ」のモニター調査が進むうちに...



グループでの会議の様子と使用した資料

情報交換会から始めた一歩！～それぞれの家庭でできること。

- ・ブレーカーは、各部屋やコンセントごとに分かれていることを発見。冷蔵庫など常に電気を使うものと、使いたいときだけ電気が流れればいい電気製品とに分類しました。そしてプラグをさすコンセントの場所を整理して、ブレーカーから電気を落としました。
- ・主電源を切っても待機電力がある電気製品とそうでないものがある事を発見。待機電力の大きいものは、特に気をつけてプラグを抜くくせをつけることにしました。
- ・手元スイッチ付きの延長コードで電気製品のコンセント周辺を整理したら、家族が皆、使い終わったら切るようになりました。
- ・70代の老夫婦家庭では、春先の暖房時間を短くするために家族で相談し、昼間（10時～14時）の廊下の暖房をやめました。

家族のコミュニケーションが増えたことでこんなことも！

- ・「これが省エネ講座の宿題なの～。」と言って、毎日のメーター検針はお父さん、グラフ作りは娘にあえて頼る。続けている間に自然と「お母さんは何をやっているのだろう？」と関心を持ち、「面倒だから絶対に抜かない」と言っていたテレビとビデオのプラグをコンセントから抜いてくれました。
- ・毎日の使用量調査から、家族の1日を振り返る思いから暖かな会話も生まれて・・・。  
「あれ？今日はいつもより少ない！」  
「（専業主婦のお母さんに）お母さん、昼間出掛けていたの？」  
「ちょっと病院にね」「調子が悪いの？」

成果発表会を開催

この年の7月に出された『市民環境調査にもとづく環境配慮行動指針の提言』には2回の調査結果が盛り込まれ、2つのグループの調査の報告会も企画されました。

報告会は、

「気温と電気・灯油使用量は、確実に連動している！」

「家族の誰かが面倒だ！と言ったらおしまい。最初にどのように盛り上げるかが肝心」など具体的な失敗談や感想も交えながら熱心な雰囲気が進みました。

一方、会場からは、

「この電気料金には基本料金は含まれていますか？」

「失礼ですがご飯は薪で炊いているのでは...？」

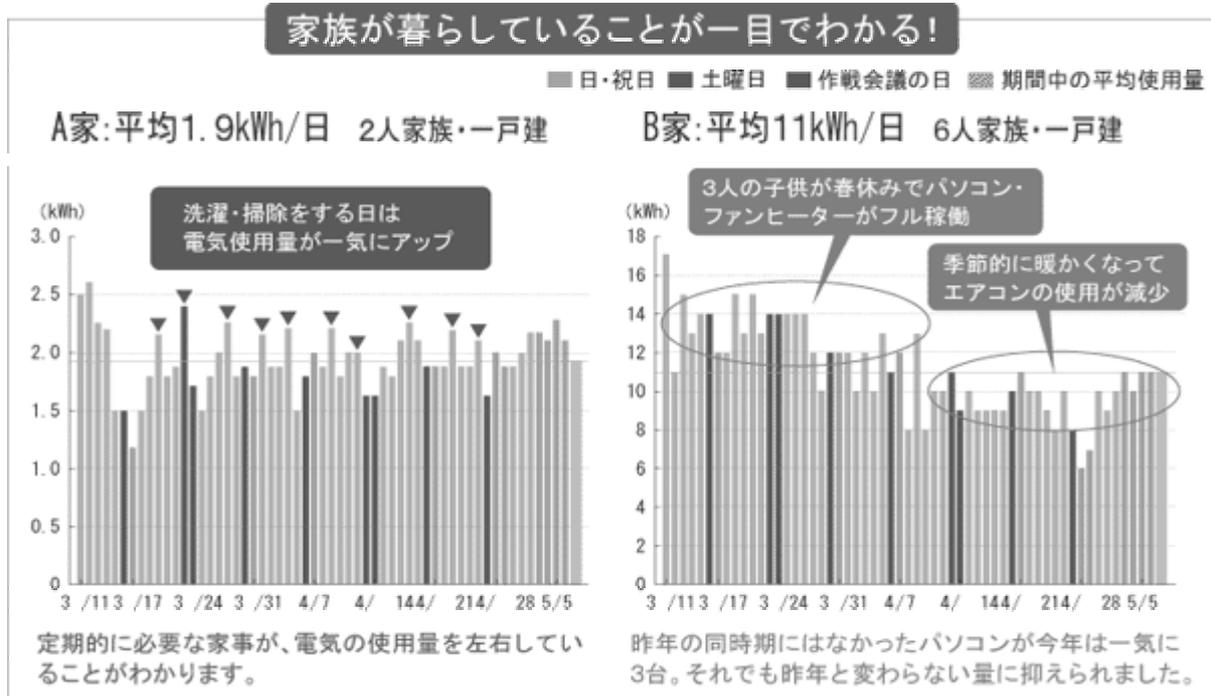
といった質問も飛び出し、大変盛り上がりました。モニターにとっては嬉しい誤解です。

「省エネは必ず勝てるゲームだ！」

『省エネを始めるためには現状を知ることが大切。省エネは実行すれば、確実に良い結果がでる。だから省エネはやればやるだけ成果が出る。工夫しながら、考えながら、教えあいながらやって生活もスッキリ変わっていく楽しさや充実感はたまらない！』

『家計を守るだけじゃない。地球を守ること。やっていくうちに視野が広がり、考え方が大きく変化する』

これが、今回参加してくださったモニターが全員一致でまとめた感想でした。



家族が一緒だと省エネになる(省エネアンバサダー21号より転載)

(3)第3シリーズ 03年08月30日～11月01日

「しおがま家庭の省エネ大作戦～コンセント<sup>から</sup>毎日抜けば、くせになる」

今回は公募で集まった5世帯のご家族とまち研のメンバーが2ヶ月間で4回の作戦会議（と称した学習会）を通じて、実際に各家庭の省エネに取り組みました。

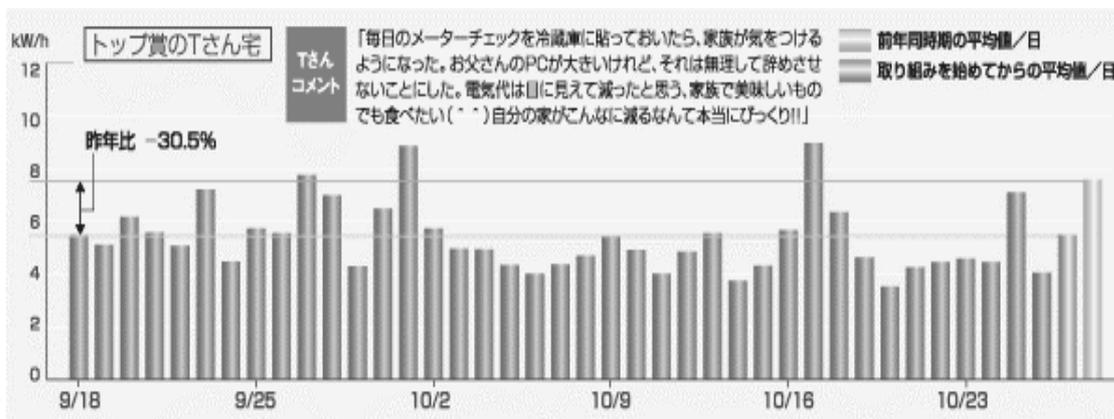
今年のキーワードは「みえないものをみる！」...毎日電気のメーターをチェックすることで、家庭内でいつの間にか使っている電気が数字で見えるようになりました。5世帯全部で使ってみた冷蔵庫のクールカーテンのおかげで、冷蔵庫内の冷たい空気と部屋の暖かい空気との境目を実感できるようになると、だんだんチェックポイントが見えてきます。最初はお友達に誘われて...というきっかけだったAさんのお宅、2ヶ月後には約12%、Tさん宅では何と30.5%もの省エネに成功しました。取り組みを始めてから、ご家族にも積極的に協力してもらった結果です。2ヶ月の間に身につけたそれぞれのご家庭の省エネのツボ、これからの生活の行動パターンとしてしっかり根付いたようです。



家族も省エネに協力

モニター家庭がテレビに登場！

第1シリーズに参加したモニター家庭がNHK仙台放送局の「テレマサムネ」(平日夕方放送)の取材を受け、毎日の生活ぶりが番組内で紹介されました。メンバーの大きな励みになったことはいうまでもありません。



省エネに成功したTさん宅の電気使用量の推移(日別)(省エネアンバサダー28号より転載)

#### 4. さいごに

塩竈の皆さんとの出会いは、まち研・環境部会が企画していた「環境市民講座」に講師として伺った時のことでした。その時も、「人と人がつながり自分たちの街を作っていく」ということへの皆さんの熱い思いを強く感じましたが、その後、一緒に省エネモニター事業を実施することになり、その印象は確信に変わりました。サブタイトルのように、まさに皆さんが自分自身で挑戦し、実際に各家庭のエネルギー消費は減っています。そしてそんな毎日にすっかりハマリ、誰かに伝えたくなり、次のシリーズを企画する・・・そんな省エネの輪は、20代の若者から80代のご夫婦まで素晴らしい広がりを見せています。

改めて感じることは、「いかにして初めの一步を踏み出せるように背中をポン！と押すことができるか？」ということが非常に重要だということです。毎日の生活の中でのエネルギー消費はもちろん、地球温暖化の原因である二酸化炭素、既に出始めている世界の現象もまた、非常に見えにくいものです。これらをしっかり伝えていくことにより、人は確実に動けるものなのだ、ということを確認することができたことも、このシリーズを展開して得た、大きな収穫といえます。

「まち研」では、早くも次の仲間探しの企画を練り始めています。

次ページからは、第3シリーズに参加して下さった、ひが<sup>しかり</sup>菜さん(ペンネーム)のモニター日記をご紹介します。フツの主婦だったひがさんが、少しずつ省エネに目覚めていく姿が、とても素直に描かれています。どうぞお楽しみください。

なお、この取り組みの概要は財団法人省エネルギーセンター<sup>2</sup>が発行する情報誌「省エネアンバサダー」にも紹介されています。

省エネアンバサダー20号(第1シリーズ報告)

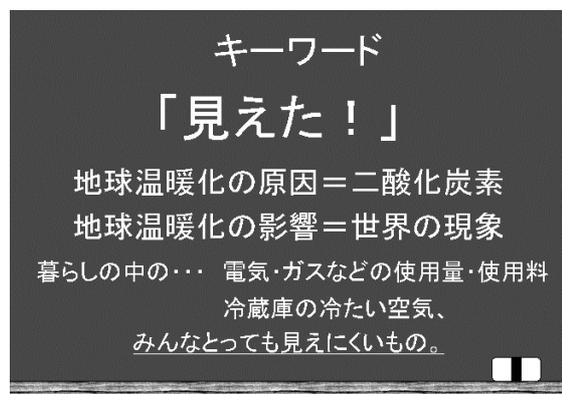
[http://www.eccj.or.jp/ambassador/jpn/20/1\\_1/1\\_1.html](http://www.eccj.or.jp/ambassador/jpn/20/1_1/1_1.html)

省エネアンバサダー21号(第2シリーズ報告)

[http://www.eccj.or.jp/ambassador/jpn/21/7\\_2/7\\_2.html](http://www.eccj.or.jp/ambassador/jpn/21/7_2/7_2.html)

省エネアンバサダー28号(第3シリーズ報告)

[http://www.eccj.or.jp/ambassador/jpn/28/6/6\\_6.html](http://www.eccj.or.jp/ambassador/jpn/28/6/6_6.html)



今回の取り組みからわかったこと

<sup>2</sup> (財)省エネルギーセンターWebsite <http://www.eccj.or.jp/>